

なかしまいせき 中嶋遺跡

この発掘調査は、東北横断自動車道釜石秋田線の建設工事にもなって記録保存を目的とした緊急発掘調査です。今回は2,811㎡を対象に平成23年10月17日より私たち公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査をおこなってきました。この中嶋遺跡では、平成19年度と20年度にも調査がおこなわれ、平安時代の集落が見つっています。また、この遺跡の南には羽黒田遺跡があり、やはり平安時代の集落が発掘調査によってみつっています。

調査成果

今回の発掘調査では、平安時代の集落が見つかりました。この集落は、遺跡内のやや高い位置に^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居がつくられており、ここで当時の人々は日常生活をしていたようです。今回みつかった竪穴住居は10軒ほどで、以前の調査と合わせると20軒ほどになります。

竪穴住居の中からは土器が見つかりました。これらは竪穴住居の中で、日常的に使用されたものと思われます。

また、竪穴住居のみられない低湿地には、土器を中心にたくさんのが泥の中に埋まっていました。これらの中には、^{かいゆうとうき}灰釉陶器という珍しいつわや木でできた箱のようなものの部品などもみられます。灰釉陶器とは、平安時代に東海地方で焼かれた土器のことで、薄い緑色のきれいな^{ゆうやく(うわぐすり)}釉薬がかけられています。おもに寺院や役所などの遺跡からみつかります。この集落は、寺院や役所と関係の深い集落だったのかもしれませんが。その証拠となるものは、これまでの調査でもいくつかみつっています。

右の写真にあるとおり、^{ふうじけん}風字硯と呼ばれる^{すずり}硯は墨で文字を書くためのもの、^{ほったてばしらたてもの}井戸や^{きよてんてき}掘立柱建物は拠点的な集落に多くみられる遺構、文字を書き慣れた人の手によるとみられる文字の書かれた土器片など一般的な集落でみられないものが多くみつっています。



↑平成19年度調査でみつかった風字硯。漢字の「風」という字に形が似ていることから名付けられた。



↑平成19年度調査でみつかった井戸。大きな木(ケヤキ)をくり抜いて作られた井戸枠が使われています。



↑平成20年度調査でみつかった倉庫と思われる掘立柱建物。



↑平成20年度調査でみつかった「寺智?」と書かれた土器片。





調査区を概観

今回の発掘調査区を南から撮影した写真です。

写真奥側に平安時代の竪穴住居が見つかるやや高い部分が位置します。

手前側には低湿地が広がり、集落から流れ込んだと思われる遺物がたくさんみつかります。

平安時代の竪穴住居
があります。

このあたりから灰釉陶器が
出土しました。

こちらは、羽黒田遺跡です。



古代の集落

ていしっち
低湿地